

ケニアへのスタディーツアーを終えて

ケニアを訪れる前、私は国際協力といわれるようなものについてたくさんの疑問を持っていました。アフリカの国々を“発展途上”と言い、何かをしてあげようという活動が日本ではよく見られて、日本の人々が考える手助けについてはいろんな種類のものを知っています。そして困っている人がいて私が何か出来るならやりたいと思っていました。だけど現地の人々が実際にどんな生活をし、どう変わりたいと考えているのか、さらに、そもそも変わりたいと思っているのかまったくわからずただ漠然と貧困とか民族問題とかという言葉がぐるぐるとしているだけでした。そこで、まずは知ることから始めたいと思い実際に行ってみることにしました。やはり実際に訪れるまでは偏見ではあるのですが私は、やっぱり貧しいんだろうか、可哀想なんだろうかと思っていました。しかし、実際にいろんな場所や人をを訪ねてみると、確かに物質的に日本などよりは貧しいことは否定できないけれど、可哀想、可哀想というようなことはないんだと気づきました。スラムを訪れたときには、私たちをたくさんの人が笑顔で迎えてくれ、子供たちは楽しそうに歌を歌いながら手をつないでついてきてくれたり、とても明るく楽しい雰囲気になんとかほっとしたのを覚えています。さらに現地の日本人の牧師さんの話を聞いたりするうちに、漠然と貧困をなくさなくては！というような考えではなく、日々の生活の中で改善していきたいことがあるんだ、そしてそれを私たちが手伝えたらいいんだなど考えるようになりました。具体的には、農村で使われている水を見て、自然のものから作れるものでいいから浄水の技術を伝えられたら、とか、スラムでごみの多いところを素足で歩き怪我をしてしまっている子供を見て、靴が必要だと感じたりしました。

そんな改善の活動の一つとして参加させてもらった道直しはとてもよい経験になりました。道の必要性というのも、雨の日に粘土質の土のせいで車がうまく動けなくなったときに強く感じていました。そして道直しの作業は重労働でしたが、熱い日差しの下で現地の人々と汗を流して働くことで、完成したときにはひとつのことを一緒にやり遂げた仲間として距離がとても縮まった気がしました。そして、この道がこれからもずっとここにあって人々が利用していくのだと考えると、なにか感慨深いものがありました。

ケニアの人々の生活を知りたいという理由でお願いしたホームステイでは、ほんとうにたくさんのことを学び、感じました。家やその庭や畑、食べ物や毎日の習慣など何をするにも見るにも新鮮でとても楽しく過ごすことができました。しかし、景色やものよりもやはり人々と会話をすることで、その人々の価値観や考え方を知ることが出来たことがとても貴重な経験だったと思います。昼間にはそれぞれ仕事がありますが、夜になると部屋でランプをともしお互いのことについて、宗教や教育から恋愛までたくさんのことを話しました。中でも私の中で一番印象に残っているのは宗教に関する話です。私は、お父さんに何教なのかとかこの世界は誰が作ったと信じているのかななどを聞かれてもすぐに答えることが出来ず、驚かれました。世界的に見ても日本人が変わっているのかもしれないが、地域によって何を大切だと思うかは

大きく違うのだと感じました。また、日本と大きく違うと思ったこととしては、民族に関することです。日本では一つの民族が多数を占めていることにすごく驚いていたし、私の民族について、民族の料理や習慣などは何があるかと聞かれ、これにもまた上手く答えられないことに対してもとても驚いていました。私が話した人々は、他の民族に対して敵対心や優越感・劣等感を感じている様にはまったく見えませんでした。自分の民族について誇りを持っているということは強く感じられました。

最後に、ケニアに滞在し、人々と交流をして一番強く感じたのは英語の必要性でした。相手のことについてもっと知りたい、自分の感情を伝えたい、自分の知っていることを教えてあげたいと思うけど、うまく言葉が出てこなくて悔しい思いをすることが何度もありました。現地の人には「日本では英語の教育はどうなっているの？」と聞かれてしまい、苦い思いもしました。だけど私たちは英語を知らないわけではなく、難しい本を読んだりすることはできるわけで、思ったことを伝えるようなことに慣れていないだけだと思います。実際に、短い間でしたが滞在している間にだんだんと言いたいことが口から出るようになっていきました。だから複雑な構文や専門的な単語を追いかけるのも、日本で勉強をするときには必要なことだとは思いますが、もっと率直に自分の考えなどを伝えられるような練習をしていくべきだと感じました。やはり言葉はコミュニケーションの基本だとも感じました。当たり前だけどとても大切なことを身をもって体験することで気づけたので、これからしっかりと生かしていきたいと思います。

以前からアフリカ、特にケニアに興味はあったのですが、何もわからず頼りない私に実際に行く機会を与えてくれ、現地でもたくさん面倒をみてくださった木村先生や道普請人の方々にはとても感謝しています。ケニアに行って何をするかについては私たちの好きなように決めさせてもらい、さらにそれを実行するためにさまざまな協力や紹介をしていただき、とても内容の濃い、充実した時間を過ごすことができました。本当にありがとうございました。また NGO や JICA についてもいろいろな事を教えてもらい、具体的でよりはっきりしたビジョンを持つことができました。いつか私も自分の出来る役割を見つけて、活動に参加できたらと思います。